

機は熟した。
2015年、
オーガニックが
本気の時代に入る。

とことんオーガニック シンポジウム2015

環境と農業 — 有機農業の原点がマーケットを活性化する —

4.24 [金] 渋谷区さくらホール
4.25 [土] 永田町星陵会館

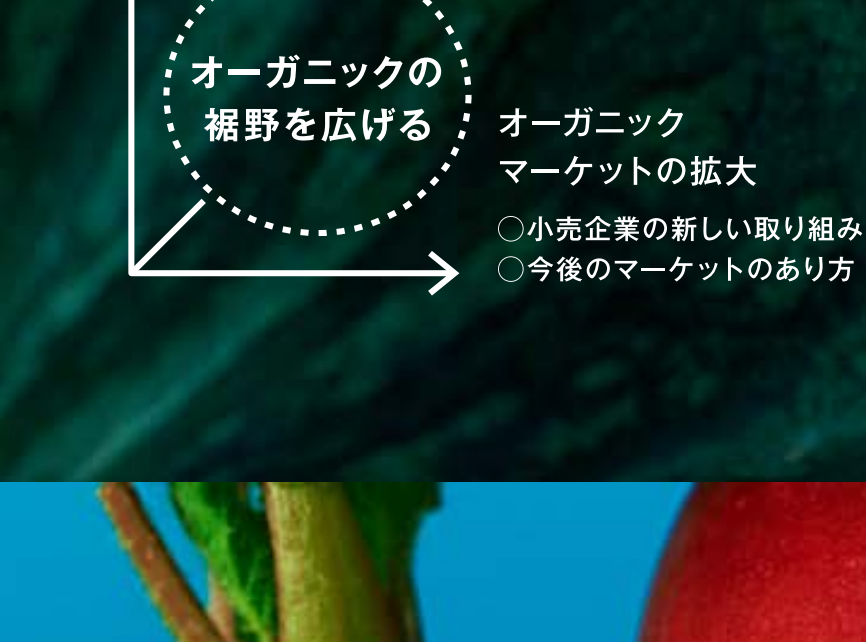
主催：一般社団法人フードトラストプロジェクト (FTP)
プロデューサー：徳江倫明 (一般社団法人フードトラストプロジェクト代表理事) / 小川孔輔 (法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科教授)
ディレクター：岡田利奈 / 渡邊竜史 / こばやしざち / 林 廣央 / 竹内 周

2009年6月-2010年6月にかけて、IFOAMジャパンを中心に有機農業関連団体、企業等の協賛によりオーガニックマーケットリサーチプロジェクトを形成し、生産者から消費者までを対象とした市場調査を行い、報告書を上梓しました。その調査によって日本のオーガニックマーケットの市場規模と成長の可能性、課題を明らかにすることが出来ました。その報告を兼ね、2011年6月10日「第1回とことんオーガニックシンポジウム2011」を永田町憲政記念会館にて開催し、参加者は流通業者、生産者を中心に458名となりました。

このシンポジウムは、本来3月15日に予定をしていましたが、2011年3月11日東日本大震災、福島第一原発事故が起り開催が不可能になり中止させていただきました。放射能汚染により福島をはじめ、東北、関東の第一次産業は壊滅的な被害を受け、特に自然の循環と土づくりを基本とし、環境問題と食の安全をテーマとしてきた有機農業にとっては大きな打撃となりました。

一旦減少気味であったオーガニックマーケットですが、ここにきて消費者の環境や食の安全に関する意識が高まり、小売業界にも新しい動きが出てきつつあります。そのため、オーガニックマーケットの現状と今後の動きを明らかにし、その活性化を目的として「第2回とことんオーガニックシンポジウム2015」を開催することとしました。

環境と農業の関係に着目し、
“オーガニックの原点を見つめ直す”ことを縦軸に、
有機農業とオーガニックマーケットの拡大、
特に“小売企業の新しい取り組みの紹介と
今後のマーケティングのあり方”についてを横軸に、
日本におけるオーガニックの
裾野を広げていきます。



有機農業の原点を語りつくす

最近若者や新規就農者の中で自然農業あるいは自然農に対する注目度が高くなっています。やもすれば有機農業と一線を画す流れもあります。何故でしょうか？
また農業における環境・安全管理を前提にしたJGAPの普及も有機JAS認証以上に加速度を増しています。今回のシンポジウムでは、「有機農業・自然農業・JGAP管理などを通じてその原点にある考え方や社会的な背景を知り、「環境」と「食の安全」、さらにはそれを支える価値観と社会の仕組みを虚心坦懐に見つめ直し、あらためて“サステイナビリティ(持続可能性)”と“ダイバーシティ(多様性)”という視点から有機農業を位置付けてみます。
また環境と農業を考える新しい評価方法としての「リファレンスレベル」、世界のオーガニックへの取り組み動向(国際有機農業運動連盟国際会議報告)、有機農業、自然農業、JGAP管理に取り組む生産者の視点、4年が経過した福島で有機農業による放射能管理の科学的裏付け、さらには「森里海の連環」という有機農業の原点など、多くの報告を予定しています。

次世代に繋ぐ — 売り場づくりから社会づくりへ —

今、農業に関心を持ち、新規就農を目指す若者、あるいは生産者と消費者をつなぐ仕事、社会貢献型事業を目指す若者が増えています。日本に有機農業という言葉が生まれたのは1971年、その原点にある考え方やこれまでの取り組みを次の世代に伝え、“主義・主張によるオーガニックの時代”に区切りをつけ、どのような社会を目指すのか、その目的や目標を共有することにチャレンジしてみたいと思います。
実際に各地で有機農業の普及を多用な切り口でビジネス展開している若手経営者、地域おこし隊に参加し、そのまま地域の中で取り組む若者、自ら自然農業や有機農業に新規就農した若者に主催してもらいます。彼らが目指している世界を彼らの言葉で語ってもらい、世代間コミュニケーションとコラボレーションを図ります。

オーガニックマーケットの可能性

オーガニックマーケットの拡大に必要なことは、当シンポジウム第1回目の市場調査報告でも明らかになっています。加えて、最近のマクドナルドに代表される大量生産・大量消費と同一性、均一化を前提にしたチェーン展開による販売システムやマーケティング方法が根本的に見直され始めています。一方で地域性、多様性に基調した地域スーパーの取り組みが注目されています。インターネット上でのコミュニティ形成など有機農業の原点にある生産者と消費者の直接的「提携」という方法が新しい展開として有機を目指す新規就農者に広がっています。
またメジャーな食品メーカーに「有機〇〇使用」という有機原料を強調し、製品そのものが有機であるかのような優良誤認(オーガニックもどき表示)にも結び付きかねない商品開発も目立ち始めています。しかしそうした傾向を単に否定するのではなく大手メーカーがそのような開発に進む社会的背景にもメスを入れる必要があります。

2011年の東日本大震災、分けても福島第一原発事故によってオーガニックマーケットは一旦横ばい傾向(縮小ではない)でしたが、ここにきて上昇傾向が見て取れます。今回は一般マーケットにおける、地域性や多様性のアプローチと「生産・販売・消費一体型マーケティング」をテーマに、もの作り(生産)・売り場作り・生活提案、さらには物流システム作り・効果的な訴求法・巷にあふれ始めた“オーガニックもどき”表示への対処法など、オーガニックマーケットを広げていく上での課題と具体的な取り組み方法を明らかにし、提案する実践的シンポジウムです。

10種類のメニューで どっぷりとオーガニックにはまる2日間!!

4.24 [金] 09:30 開場

- 10:00 開会挨拶
金子美登 (全国有機農業推進協議会理事長、常任農場：有機農業生産者、日本有機農業研究会)
「有機農業の原点を語る」
山下一穂 (有機農業参入促進協議会会長、有機農業・自然栽培生産者、有機のがっこう土佐自然塾)
「次世代へ繋ぐ」
- 10:15 プログラムI 基調報告(シンポジウム趣旨)
「持続可能性と生物多様性を実現する — 森里海の連環 —」
徳江倫明 (一般社団法人フードトラストプロジェクト代表理事)
- 10:45 プログラムII 記念講演
「環境を守る農業 — 自然農業と有機農業の目指すもの —」
木村秋則 (木村興農社代表取締役、自然栽培農業りんご生産者)
- 11:35 プログラムIII 基調講演
「マクドナルドの時代は終わったのか — アメリカのマスマーケティング時代の終焉 —」
小川孔輔 (法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科教授、日本マーケティング・サイエンス学会代表理事、学会長、農水省環境保全型農業セーフティネット推進研究会委員)
- 12:30 休憩 (60分)

- 13:30 プログラムIV パネルディスカッションI
「売り場を作る — 生・販・消一体の取り組み —」
司会：徳江倫明 (一般社団法人フードトラストプロジェクト代表理事)
パネラー：福島 徹 (株式会社福島屋代表取締役会長、福島農主幸、有機農業参入促進協議会理事)
福永庸明 (イオンアグリ創造株式会社代表取締役)
山下一穂 (有機農業参入促進協議会会長、有機農業・自然栽培生産者、有機のがっこう土佐自然塾)
岸 憲正 (株式会社農林漁業成長産業化支援機構 投資資本部長)
渡邊智恵子 (株式会社アイフォーム代表取締役)
北條裕子 (株式会社カミツレ研究所代表取締役)
- 15:40 プログラムV パネルディスカッションII
「次世代の取り組み — 売り場作りから社会づくりへ —」
司会：ファンリテーター・西辻一真 (マイファーム株式会社代表取締役、アグリイノベーション大学校長) 久松達夫 (次松農園代表、有機農業生産者)
パネラー：小野邦彦 (坂ノ途中代表)
岡田利奈 (エフティビーエス株式会社 販コディネーター)
大石リカ・デリカヤス (SuperOrganicFoods / ビオ国際学会)
その他 (新規就農者)
- 17:30 プログラムVI 提案・ご案内

4.25 [土] 09:30 開場

- 09:40 開会挨拶
- 09:50 プログラムVII 有機農業の原点を考える — 国民が納得する農業とは —
基調講演「有機農業の本質 — 森・里・海の連環 —」魚住道郎 (魚住農園：有機農業生産者、NPO法人日本有機農業研究会理事)
リポート「①「福島原発事故と有機農業」菅野正寿 (有機農業生産者、NPO法人福島県有機農業ネットワーク理事長)
②「世界のオーガニックとこれからの方向性」村山勝茂 (NPO法人アイフォームジャパン理事長)
休憩 (10分)
③「300町歩の挑戦 — 有機農業・自然農業・JGAP —」井村辰二郎 (農産工房金沢大地代表、有機農業生産者)
④「農業と自然エネルギー — 野菜と一緒に電力の産直 — が実現する」大石英司 (みんな電力株式会社代表取締役)
- 基調講演「国民が納得する農業 — リファレンスレベル —」荘林幹太郎 (学習院女子大学教授、財団法人日本OAP協会理事長)
質疑応答 (30分)
- 13:30 休憩 (60分)

- 14:30 プログラムVIII 「地産企消」の可能性 — 企業が農家から農産物を直接買い取り、「提携」する仕組み —
企画：一般社団法人グリーン経営者フォーラム
司会：森 撰 (グリーン経営者フォーラム代表理事、オオルナ編集長)
パネラー：金子美登 (全国有機農業推進協議会、常任農場：有機農業生産者、日本有機農業研究会)
山本拓己 (株式会社KOKUTA代表取締役)
薬谷康介 (株式会社日本総合研究所主要研究員、㈱日本政策投資銀行地域企画部特別顧問、里山資本主義筆者)
- 16:00 プログラムIX リサーチ発表
「有機もどき表示の氾濫とオーガニックに関する消費者意識」
青木薇子 (法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科特任講師)
- 16:30 プログラムX パネルディスカッション
「これからの地域スーパーの活性化 — キーワードは“売る”ではなく“伝える” —」
企画：福島塾
協力：商業界、福島塾参加企業
司会：徳江倫明 (一般社団法人フードトラストプロジェクト代表理事)
パネラー：福島 徹 (スーパー福島農産物、福島農主幸、有機農業参入促進協議会理事)
福士英雄 (農事組合法人羽白開発代表、自然栽培生産者)
笹井清則 (商業界編集長)
小川孔輔 (法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科教授)

お問い合わせ
TEL. 03-3523-0028
FAX. 03-3523-0861

一般社団法人フードトラストプロジェクト (FTP)
とことんオーガニックシンポジウム事務局
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-22-8 内外ビル7F

FAXでお申し込みをご希望される方は直接、事務局までご連絡ください。

- 企画委員 五十名程
- 秋元一宏 (E.O.H.S WORLD 代表)
 - 天原浩之 (エフティビーエス株式会社 / 取締役社長)
 - 石原北斗 (株式会社マイファーム / 部長)
 - 小川孔輔 (法政大学大学院 / 教授)
 - 木下美樹 (株式会社サイミー / オフィス)
 - 桑原真介 (株式会社森原商店 10+)
 - 佐藤綾子 (株式会社オクタナ / 経営企画室室長)
 - 竹内 勉 (日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会 / 理事長)
 - 高橋 勉 (おひい村)
 - 千田雅明 (ハシフィックコンサルタンツ株式会社)
 - 辻 吉彦 (TSUKURU株式会社 / 代表取締役)
 - 中村実代 (エービーシーエンタープライズ株式会社 / 代表)
 - 日野雄策 (若手有機農業連絡協議会 / 事務局長)
 - 福尾美貴子 (法政大学 / 小川孔輔研究室)
 - 藤井淳生 (安心農業株式会社 / 代表取締役)
 - 星野 敬 (株式会社ネオ・モルガン研究所 / マネージャー)
 - 前田登和子 (マクニオン研究所 / 編集・ライター)
 - 前野欽哉 (株式会社Andeco / 取締役)
 - 森 撰 (株式会社オクタナ / 代表取締役)
 - 山口夕方 (オーガニックウィレッジジャパン事務局 / 事務局長)
 - 渡辺 悠 (株式会社アファス認証センター / 取締役)

- 事務局
- 徳江倫明 (フードトラストプロジェクト / 代表理事)
 - 岡田利奈 (エフティビーエス株式会社)
 - 渡邊竜史 (エフティビーエス株式会社)
 - こばやしざち (フードトラストプロジェクト)
 - 林 廣央 (生きもの認証推進協会 / 理事)